

新たな洪水浸水想定区域の指定について

現在

計画規模の洪水浸水想定区域の指定（L1）

過去に降った雨を基に算出した、
河川整備の基本となる降雨を対象とした洪水での浸水想定区域（計画規模）

《公表内容》 ・浸水範囲 ・浸水深さ

～ 概ね30から100年に1回の確率で発生する規模～

近年の水災害の激甚化

・平成24年7月九州北部豪雨

・平成27年9月関東・東北豪雨

・平成28年8月東北豪雨

・平成29年7月九州北部豪雨

・平成30年7月豪雨（西日本豪雨） 他

★ 水防法の改正（H27.5月） ★

『想定し得る最大規模』の降雨を対象とした
洪水浸水想定区域図を新たに公表

今回

想定最大規模の洪水浸水想定区域の指定（L2）

想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水での浸水想定区域（想定最大規模）

～ 概ね1,000年に1回の確率で発生する規模～

《公表内容》 ・浸水範囲 ・浸水深さ ・浸水継続時間^{※1} ・家屋倒壊等氾濫想定区域^{※2}

関係市町村でハザードマップの見直し

宮崎県：市町村が作成する洪水ハザードマップ^{※3}作成の支援を行う。

住民の迅速で、確実な避難

水害による人的被害軽減

用語の解説

●浸水継続時間^{※1}

市町村長による屋内での待避等の安全確保措置の指示等の判断に資する情報として、任意の地点において、氾濫水到達後、屋外への避難が困難となり孤立する可能性のある浸水深0.5mに達してからその水深を下回るまでにかかる時間を示すものです。

●家屋倒壊等氾濫想定区域^{※2}

市町村長による屋内での待避等の安全確保措置の指示等の判断に資する情報として、「想定し得る最大規模の降雨」により、近傍の堤防が決壊等した場合に、一般的な建築物が倒壊・流出する等の危険性が高い区域を示すものです。「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、洪水氾濫によるものと河岸侵食によるものがあります。

●洪水ハザードマップ^{※3}

今回作成した「想定し得る最大規模の降雨」による洪水浸水想定区域図に洪水予報等の伝達方法、避難場所及び避難経路などの情報を記載したもので、市町村が作成し、印刷物の配布やインターネット等により住民等に周知を行うものです。